

4年間、学校の建て替え計画はなし

6月議会に総合計画後期基本計画の実施計画が提案されています。これは2022年～25年度までの各年度にどんな事業をやるのか、いくら予算がいるのかなどが明記されています。

同時に示された長期財政見通しでは、この期間、財政調整基金(普通預金のこと)の残高は20億円程度を維持するとしています。しかし、盛り込まれなかった大事な事業がいくつもあります。結局、財調残高20億円という目標をクリアすることを優先した計画作りだったのではないのでしょうか。

東小の体育館 雨漏りが心配 卒業式を文化会館で実施



例えば、党市議団は老朽化が進む学校の建て替えを強く求めています。市は長寿命化計画を立てるだけです。しかし、寿命がきている亀中や東小の体育館の延命策はありません(左はたらい等が常時置かれている東小体育館)。

東小は体育館の雨漏りが心配で、今年の卒業式を文化会館で実施せざるを得ませんでした。それなのに、2025年度までの総合計画実施計画に亀中と東小の体育館の建て替え計画はありませんから、早くても2026年度以降にしか着手しないこととなります。

東小体育館の全面改修予算 市長は認めず

さらに東小の体育館は災害時の指定避難所にもなっていますので、指定避難所の見直しさえ必要な事態です。大雨の時に市民は指定避難所へ避難しますが、そこが雨漏りしては避難所としての役割が果たせません。

これまで何度も修繕でごまかしてきましたが、一向に雨漏りは治まりません。教育委員会は屋根の全面修繕のために3千万円の予算を市長に要望しましたが、認められませんでした。一方で同じ予算にリニア基金への5千万円の積み増しが計上されました。やはり櫻井市政は、教育・福祉よりリニアなのです。

これほどの事態になっているのに建て替えをしようしない櫻井市長の姿勢は理解できません。

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2022年 6月 5日 発行 No. 276

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は kouki.giin@gmail.com ツイッターでも発信中

電話、FAX 0595-82-3646 市議団ホームページ「共産党 亀山」で検索を

6月議会が始まった

中学校給食 令和9年度から

情報公開で請求。条例では15日以内に決定、通知となっているのに、その日が来ても連絡なし。市は平謝り。市の期限を1日でも過ぎたら市民はダメだと言われる。市が条例を守らずにどうするのか！ってこと。

さて、総合計画後期基本計画の実施計画に「中学校^{きつしよく}全員喫食(楽しくおいしく食べること)制給食実施事業」が盛り込まれました。ようやくという感じですが、給食センターの完成が2026(令和8)年度であり、給食が実施されるのが2027(令和9)年度になってしまいます。今の小学校2年生が中学入学の年で、あまりにも時間がかかりすぎます。

議会の決議は「早期実現」

特に今年度は「建設地、運営方法等の検討・決定」となっていますが、まだこんなことすら決まっていなかったのかと思います。6月議会では、この問題を取り上げる議員もいると思いますが、議会の決議(昨年3月)が「亀山中学校及び中部中学校のセンター方式による完全給食の早期実現」を求めていますので「早期実現」を迫る必要があります。

総合計画を審議する大事な議会

6月議会の日程

- 13、14日 本会議(議案質疑)
- 15、16日 本会議(一般質問)
- 20日 産業建設委員会
- 21日 教育民生委員会
- 22日 総務委員会
- 23、24日 予算決算委員会
- 29日 本会議(閉会)

6月議会が始まりました。通常、予算が決まった直後なので議案が少ないのですが、3月議会に予定されていた総合計画基本構想の変更や後期基本計画案が提案されました。後期基本計画は、今年度から始まり2025(令和7)年度までの4年間の市の施策を決める重要な計画です。時間をかけてしっかりと審議しなければなりません。

川崎南保育園を増築へ 令和6年度に完成



総合計画後期基本計画の実施計画に市立川崎南保育園(左の写真)の増築が載りました。2023(令和5)年度と2024(令和6)年度で完成させる予定で、0歳～2歳児の待機児童解消が狙いです。今年度に完成する市立和田保育園増築に続く既存園の改築、増築による待機児童解消策です。

この川崎南保育園については、2020(令和2)年度からの「第2期亀山市子ども・子育て支援事業計画」で「短期的に効果を発揮するためのポイント」として機能拡大が可能な施設の増改築として和田保育園と川崎南保育園があげられました。

隣接地の購入で送迎路も改善へ

市の「子ども・子育て支援事業計画」では、「川崎南保育園に隣接する用地(西側)を取得し、保育室等の増築」、「^{きょうあい}狭隘な送迎路の見直しも検討」とされています。今回の実施計画はその具体化です。この土地が取得できれば、国道306号線から園への出入りも可能になり、園への送迎が大きく改善されます。

計画では「保育室等の増築」ですが、この園舎はすでに2019年に更新時期を迎えており、全面的な建て替えが必要な園舎です。今回の用地取得で現在の2倍ほどの敷地面積になりますから全面的な建て替えも十分に可能なのです。

認定子ども園こだわった櫻井市長の責任は重い

党市議団はこれまで櫻井市長がこだわる認定子ども園の整備による待機児童解消ではなく、改築、増築が可能な既存園での整備を一貫して求め続けてきました。また、保育の担当部門では、認定子ども園の整備以外に既存園での整備で事業計画を考えていましたが、市長の「こだわり」でこれまで実現しなかったというのが実態です。もっと早い段階で市長が方向転換していれば、待機児童解消が早い時期に進んだこととなります。

結局は、早期の待機児童解消を果たすにはこの方向しかないのにそれをせずに、認定子ども園の整備にこだわり続け、待機児童の解消を遅らせた櫻井市長の責任は重いのです。

リニア駅 鉄道利用より自動車利用を重視か



情報公開請求で市がコンサルに委託したリニア駅に関する調査の中間報告書を手に入れました。肝心の「成果」部分などは非公開という「部分公開」でしたが、ざっと目を通してみて分かったことがいくつかありました。

1つは、リニア三重県(亀山)駅は地上駅になること。

2つ目は、「三重県駅の優位圏の考察」としてリニア開業後、「鉄道利用より、自動車利用の方が亀山中間駅の優位圏が広がることを踏まえ、自動車でのアクセス性を重視した検討が求められ」としていること。

3つ目は、「三重県駅は、在来線駅と接続されない位置への立地も想定」されることとしていること。

駅位置はインター周辺ということも？

この2つ目と3つ目を読むと、在来線を利用した鉄道利用より高速道路網を活用した自動車利用に重きを置くべきだとしているように受け取れます。

さらに昨年11月の一見県知事の『(リニアの)利用者が少なければ列車はとまらない』という発言や今年2月に県の幹部職員が「亀山に駅がくると、鉄道への乗り継ぎが厳しい。高速道路といかに連絡していかかが重要だ。」と述べたことを重ね合わせるとインター周辺というのもありそうです。

リニア亀山駅の乗降客が7千人ってあり得る？

4つ目は、東京外環道路のトンネル工事で問題になっている「大深度地下」(地下40m以深での工事)は、三重県内では桑名市、東員町、四日市市は対象ですが、亀山市や鈴鹿市は対象外だということ。

5つ目は、開業後の三重県駅の乗降客数については、甲府駅の約12,300人/日、長野県駅の約6,800人/日、岐阜県駅の約7,000人/日の想定を示し、「都市規模から想定すると三重県駅もこれら中間駅と同程度かそれ以上の乗降客数の想定が予測」されることとしていること。

非現実的だと識者などが指摘する甲府、長野、岐阜の予測を基に「三重県駅もこれら中間駅と同程度かそれ以上の乗降客数の想定が予測」されるのはあまりにも非現実的です。多分、市民の多くも三重県駅の乗降客数が1日7,000人と聞かされても即座に「あり得ない」と言うでしょう。